

第2表

	八幡平市	奥州市		岩手町
		ホワイトキャンパス(水沢)	スマイリールーム(江刺)	
問1 居場所の有無	ある	ある	ある	ある
問2 場所	保健センター一部借用	市保有の空き施設(旧消防署跡)	勤労青少年ホームの一室	開発センター
問3 ア 広さ イ 部屋数 室 ウ 部屋の種類	90㎡ 2室 図書室・学習室 1室 事務室 1室	276㎡ 3室 遊戯・運動室 1室 図書室・学習室 1室 物品倉庫 1室	80㎡ 1室 図書室・学習室 1室	30㎡ 1室 会議室
問4 運営主体	公設・公営 八幡平市	公設・民営 奥州市設置・市民会議運営	民設・民営 NPO法人設置・NPO法人運営	公設・公営 岩手町
問5 機能	学習・体験・生活	遊び・学習・体験・交流	遊び・学習・交流	学習・体験・交流
問6 年齢層	中学生のみ	小学生・中学生・20歳まで	中学生・高校生	小学生・中学生
問7 ア 利用できる曜日 イ 月間稼働日数 ウ 時間帯:	月～木曜日 20日 9:30～14:30	①月・水・木/②土日 23～25日 ①15:00～18:00/②10:00～18:00	月・水・木・土 18日 平日:15:00～18:00 土・祝・長期休業日:10:00～18:00	月～金曜日 20日 9:30～15:00
問8 月間利用者数(延べ) ア 就学前児童 イ 小学生 ウ 中学生・高校生 エ その他	60人   3人	358人  53人 293人 12人	18人  9人 9人	60人  20人 40人
問9 (1)スタッフ人数 (2)内訳 (3)ボランティアの内訳 (4)給与・報酬	1人 臨時・非常勤職員 1人  1人	20人 ボランティア等 20人 子ども会、母親クラブ、PTA、学生・生徒、民生児童委員、地域団体等	2人 正規職員 1名・ボランティア等 1名  有償ボランティア 2人	1人 臨時・非常勤職員 1人  1人

<p>問10 (1)年間運営費(支出額) (2)助成額</p>	<p>766千円</p>	<p>2,050千円 1,400千円 国・県・市町村</p>	<p>900千円 800千円 独立行政法人福祉医療機構</p>	<p>2,713千円 900千円 県</p>
<p>問11 具体的成果</p>	<p>学校へ登校できない児童生徒が、安心して学習活動が出来る場となり、閉じこもり児童生徒防止の一助になっている。</p>	<p>小学生～高校生世代の異年齢の交流が生まれることで、少しずつ我慢する、他者をおもんばかりなど真の「社会性」を育てている。また、子どもたちが身近でありのままの姿でいられる空間づくりに努めてきた結果、表出しにくいいじめや引きこもり、自傷行為、虐待など「気になる」子どもたちの発見にもつながり、その支援にも効果を挙げている。</p>	<p>・異年齢の児童・生徒と交流ができ、他の人とかかわりを持つ機会が増えた。</p> <p>・子ども達が放課後安全に過ごせる場があることで、本人や保護者が安心できる。</p> <p>・日頃の成果を表現する機会ももったことから、周りの人達に認められ、自信につながったり、刺激を受けたりすることができた。</p>	<p>不登校になり、遅れていた学習のフォローや落ちた体力の回復をはかることができる。小さな「居場所」でも小集団ができるので、集団生活におけるルール等を身につけることができる。また、人との交流を図ることができる。</p>
<p>問12 今後の課題・問題。 そのことについての考え。</p>	<p>不登校児童生徒を対象とした適応指導教室ではあるが、本人の心的状況、保護者の考えや、広範な行政区に一つの施設のため、通級方法との関係で市内の入級対象児童生徒が全員通級する状況にはなっていない。</p>	<p>居場所はいわゆる「普通の子」の来所が大半だが、一部、様々な課題を抱えた子の来所もある。反社会的な行動の背景には必ず理由があり、家族や社会とのつながりが希薄で孤立している場合が多い。拠り所を求め浮遊している子どもたちを排除せずに受け止めることで、彼らが自己を取り戻し上記の「社会性」を獲得していく必要がある。この事こそがホワイトキャンパス(居場所)の役割ではないだろうか。</p>	<p>・周知不足もあり、イベント以外は利用者が少なかった。現在利用している生徒はもちろん、小学校高学年も利用対象に加えるなど、居場所を必要としている子どもたちがこれから中学・高校になるまでずっと利用できるような場所としたい。</p> <p>・公設ではないため、居場所の運営費等は現在、助成金や自主資金で実施している。来年度以降も継続していくためには資金の確保が課題である。</p>	<p>・親や学校との連携</p> <p>・体験学習等に要する経費の問題</p>